

(独立行政法人教員研修センター委嘱事業)

教員の資質向上のための研修プログラム開発事業
(C 民間教育団体による研修プログラム開発支援事業)

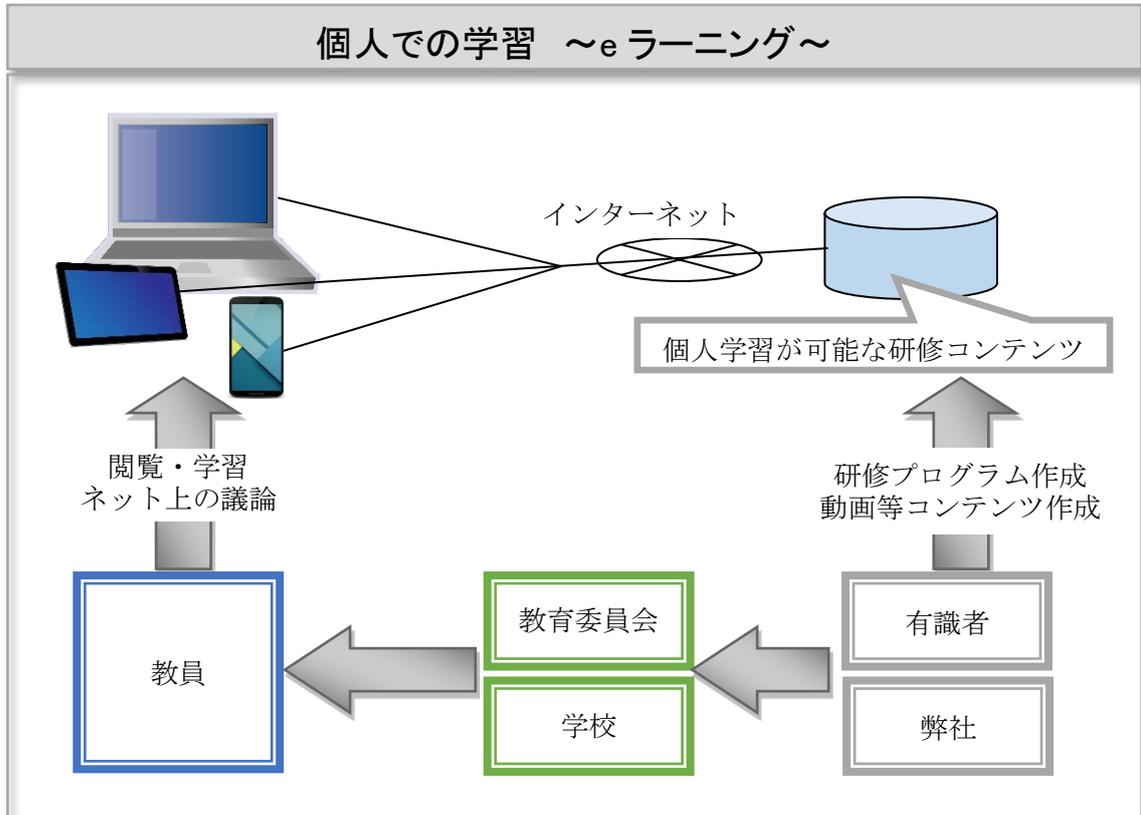
実 施 報 告 書

プログラム名	eラーニングを活用した教員研修プログラム
プログラムの特徴	<p>オンライン上に教員向け研修コンテンツを搭載し、パソコン、タブレット端末、スマートフォン等いつでもどこでも学べる仕組みを作るとともに、そこで学んだことを生かした集合研修を行う。事前にeラーニングでインプットを行い、集合研修では集まっているからこそできることを中心に行い、研修全体としての理解度、定着度の向上を図る。</p> <p>また、eラーニングで取り上げるテーマは、中央教育審議会教育課程部会で審議が進められてきた「次期学習指導要領」の改訂に関する方向性や考え方、およびその背景等のポイントを「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」（平成28年8月26日）に沿って、体系的にわかりやすく解説する「総論編」、および、次期学習指導要領の中核となる「カリキュラム・マネジメント」、「アクティブ・ラーニング」とした。加えて、eラーニング修了後に行う集合研修の講演会では、さらに最新の情報を付加した。</p>

平成 29 年 3 月 30 日

機関名：株式会社ベネッセコーポレーション

プログラムの全体概要



+

eラーニング学習後

集団での学習 ~集合研修~

■基調講演

本講座の3つのテーマのうち、総論にあたる「次期学習指導要領のポイント」を踏まえ、「新学習指導要領とこれからの授業づくり ~理論と実践をつなぐ~」をテーマに講演会を実施し、より理解を深める。

■ワークショップ

本講座の3つのテーマそれぞれに対し、ワークショップを実施。受講者は各講座の修了課題を持ち寄り、講座を担当した講師からの指導や助言を仰ぐとともに、学校種を超えた交流を行う。

I 開発の目的・方法・組織

1 開発目的

平成 25 年に行われた OECD 国際教員指導環境調査 (TALIS) の結果でも明らかになったように、わが国の教員は、職能開発の必要性が高いと感じている割合が大きいにもかかわらず、仕事に従事する時間が長く、実際に職能開発の行動を行った割合は決して大きくないのが現状である。

一方、主体的・協働的な学びの実現、小中一貫教育、小学校における外国語教育、ICT 利活用教育、道徳教育、特別支援教育、学校インターンシップなど、様々な教育課題や次期学習指導要領に向けての検討事項があり、教員にとって新たに学ばなければならないことが数多く存在している。教員に限らず、社会人は生涯学び続けていかなければならない。そのような中で、一般社会においては企業等の内外で e ラーニングが当たり前のよう存在しており、研修・研さんの効率化に寄与している。しかしながら、学校においてはまだ e ラーニングは一般的になっておらず、今後の開発の余地がある。

また、地域特性、地域課題はあるにせよ、全国共通で行うことが可能な研修であっても各自治体、各教育委員会においてそれぞれが研修計画を立案し、講師を手配し、研修を行っており、教育センター等に勤務する優秀な指導主事のパワーを研修運営に割いているのが実情である。

本事業では、e ラーニングの手法を用いることで、複数自治体に対して共通の内容の研修を効率的に実施できるようにし、かつ、多忙な教員が日々の中のわずかな時間で学ぶことができる環境を提供することを目的として、研修プログラムおよびコンテンツの開発を行う。

2 開発の方法

文部科学省より平成 28 年 8 月に発表された「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめについて」の資料については、一部特徴的な変更点や新規事項については新聞等で報道されている。しかしながら、今回の改訂の全体像や改訂の背景を丁寧に解説されたものは十分であるとは言えない。そこで、中央教育審議会教育課程部会教育課程企画特別部会の委員をされている横浜国立大学名誉教授高木展郎先生を監修、講師に迎え、改訂の背景や改訂の考え方等を丁寧に解説いただくこととした。併せて、今回の改訂の重要なポイントとなる「カリキュラム・マネジメント」、「アクティブ・ラーニング」についても、改訂の背景や改訂の考え方等をもとにして、講座のテーマとして取り上げ、授業改善アドバイザーの三浦修一先生、横浜国立大学非常勤講師の白井達夫先生を講師としてお招きした。

この 3 つの講座テーマについての e ラーニング動画を撮影し、受講者へ提供すると共に、e ラーニング終了後に 3 名の講師をお招きし、集合研修を行った。

受講者の募集については、教育委員会、校長会、私学協会等を通じて幅広く行った。

講座 1	若い教師のための現代的教育課題 ～次期学習指導要領のポイント～ 講師:横浜国立大学名誉教授 高木展郎先生
2020年度より施行される次期学習指導要領の改訂に伴い、児童生徒の資質・能力の育成の在り方が問われています。さらに、「社会に開かれた教育課程」の実現をめざし、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な知識や力を育むことが求められています。本講座ではそうした次期学習指導要領のポイントを高木先生から体系的にわかりやすく解説いただきます。	
講座 2	カリキュラム・マネジメント入門 ～カリキュラム・マネジメントで学校を変える～ 講師:授業改善アドバイザー 三浦修一先生
次期学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」の理念のもと、子供たちが未来の創り手となるために求められる資質・能力を育てていくためには、各学校が「カリキュラム・マネジメント」を通じて、子供たちが「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」が問われています。本講座ではその基本的な考え方や教員としての関わり方について三浦先生から解説いただきます。	
講座 3	アクティブ・ラーニングの実践 ～授業づくりの視点としてのアクティブ・ラーニング～ 講師:横浜国立大学非常勤講師 白井達夫先生
新しい時代に求められる資質・能力の育成には、児童生徒の主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点からの授業改善が求められています。本講座では、アクティブ・ラーニングとは何かといった基本事項から、どのように授業を構成し、実施するのかといった具体的な授業実践についてまで、その全体像を白井先生から解説いただきます。	

3 開発組織

本 e ラーニング講座は以下の有識者、弊社社員で企画、制作、運営を行った。

No.	所属・職名	氏名	担当・役割
1	横浜国立大学名誉教授	高木 展郎	監修、企画、講師
2	授業改善アドバイザー	三浦 修一	企画、講師
3	横浜国立大学非常勤講師	白井 達夫	企画、講師
4	(株)ベネッセコーポレーション	小林 一木	事業責任者
5	(株)ベネッセコーポレーション	小野 恭裕	企画、運営、制作
6	(株)ベネッセコーポレーション	木下 祐路	企画、運営、制作
7	(株)ベネッセコーポレーション	長谷川 康代	企画、運営、制作
8	(株)ベネッセコーポレーション	宇都宮 嘉宏	企画、運営、制作
9	(株)ベネッセコーポレーション	山田 悠貴	企画、運営、制作
10	(株)ベネッセコーポレーション	川合 啓之	企画、運営、制作
11	(株)ベネッセコーポレーション	田中 勇作	企画、運営、制作
12	(株)ベネッセコーポレーション	梅田 剛	企画、運営、制作
13	(株)ラーンズ	宮次 博康	集合研修運営
14	(株)ラーンズ	小野 亜希子	集合研修運営
15	(株)ラーンズ	中原 茂樹	集合研修運営

II 開発の実際とその成果

1 eラーニング講座の背景とねらい

文部科学省より平成28年8月に発表された「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめについて」の資料について、その背景からひもとき、今回の改訂の全体像を丁寧に解説することが重要と考える。また、一部ことばが先行して様々な解釈が広まっている「アクティブ・ラーニング」については、文部科学省の正確な意図と背景を明確に示し、誤解の無いようにすることも重要である。

次期学習指導要領の根幹となる「学力観の転換（資質・能力の育成）」や、「社会に開かれた教育課程」「カリキュラム・マネジメント」「主体的・対話的で深い学び」等の概念の理解促進や、学校教育現場が抱えている実践上の疑問・懸念等に対する解決への視点を示すことで、実践に向けてより積極的に動ける支援をする。

これらのことを踏まえ、本講座では3つのeラーニング講座を開講した。

2 3つの講座の具体的内容

3つの講座は、以下のような章立て、内容で構成している。各章には、その内容に応じたワークや受講者どうしのディスカッションがある。

講座 1	若い教師のための現代的な教育課題 ～次期学習指導要領のポイント～ 講師：横浜国立大学名誉教授 高木展郎先生
第1章「次期学習指導要領改訂の背景」	
第2章「学力観の転換」	
第3章「社会に開かれた教育課程」 ～次期学習指導要領改訂の方向性～	
第4章「何ができるようになるか」 ～育成を目指す資質・能力の三つの柱～	
第5章「何を学ぶか」 ～つながりを踏まえた教育課程の編成～	
第6章「どのように学ぶのか」 ～学習・指導の改善・充実～	
第7章「授業実践にどう生かすか」 ～ディスカッション～	
第8章「子供の発達をどのように支援するか」	
第9章「何が身に付いたか」 ～学習評価の充実～	
第10章「学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策」	

講座 2	カリキュラム・マネジメント入門 ～カリキュラム・マネジメントで学校を変える～ 講師:授業改善アドバイザー 三浦修一先生
<p>第1章「次期学習指導要領改訂の背景」 (講座I「若い教師のための現代的教育課題 ～次期学習指導要領のポイント～」より)</p> <p>第2章「学力観の転換」 (講座I「若い教師のための現代的教育課題 ～次期学習指導要領のポイント～」より)</p> <p>第3章「カリキュラム・マネジメントって何？」</p> <p>第4章『『カリキュラム・マネジメント』はなぜ必要か？』</p> <p>第5章「各教科のカリキュラムでは不十分？」</p> <p>第6章「カリキュラム・マネジメントの具体的な方向」</p> <p>第7章「カリキュラム・マネジメントの具体的な進め方 ～学校では何をするのか～」</p> <p>第8章「カリキュラム・マネジメントのめざすところ ～ゴールはどこに～」</p>	

講座 3	アクティブ・ラーニングの実践 ～授業づくりの視点としてのアクティブ・ラーニング～ 講師:横浜国立大学非常勤講師 白井達夫先生
<p>第1章「次期学習指導要領改訂の背景」 (講座I「若い教師のための現代的教育課題 ～次期学習指導要領のポイント～」より)</p> <p>第2章「学力観の転換」 (講座I「若い教師のための現代的教育課題 ～次期学習指導要領のポイント～」より)</p> <p>第3章「子供たちを主語にした授業を ～アクティブ・ラーニングは授業づくり・授業改善の視点～」</p> <p>第4章「$y=ax$ ～アクティブ・ラーニングを通して学び合うことの意味～」</p> <p>第5章「縦横のつながりの大切さ ～カリキュラム・マネジメントとアクティブ・ラーニング～」</p> <p>第6章「学習内容のカリキュラムと学び方のカリキュラム ～アクティブ・ラーニングそのものが目標ではない～」</p> <p>第7章「単元構成の工夫と話し合い活動の充実 ～アクティブ・ラーニングは時間がかかる～」</p> <p>第8章「パフォーマンス評価の充実を ～アクティブ・ラーニングと評価～」</p> <p>第9章「修了課題 ～アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の構想づくり～」</p>	

3 eラーニング画面

受講者に対しては、スムーズに受講できるよう、ログイン方法や画面遷移の説明等の「受講ガイド」を作成。

①ログイン画面

受講者ごとに、ログインIDとパスワードを付与。



②講座画面

受講者に対するメッセージと3つの講座を表示。



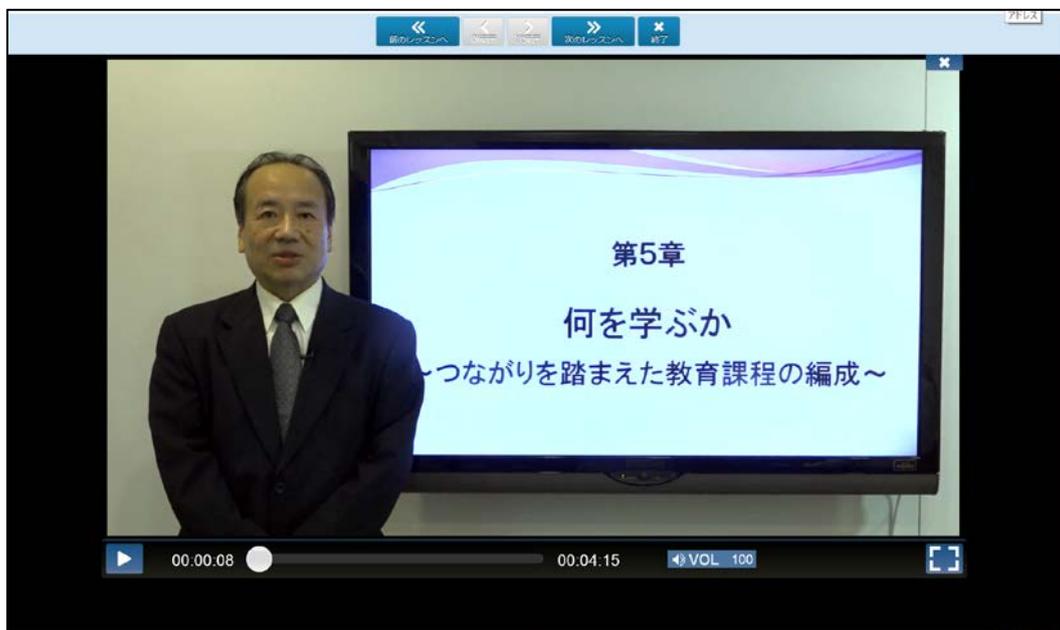
③講座画面詳細

各講座の各章で扱う具体的な内容を表示。

The screenshot shows a web browser displaying the 'e-Learning Course' page for 'Lecture I: Modern Education Topics for Young Teachers' (講座 I 「若い教師のための現代的教育課題 ～次期学習指導要領のポイント～」). The page is in Japanese and includes a navigation menu on the left with options like 'Home', 'Course Details', 'Lecture', 'Documents', and 'Dashboard'. The main content area displays the course title, instructor (高木順郎先生), and progress (0%). It lists the course schedule (2016/11/28 ~), number of sessions (5), and the current session (第7章ワーク 「ディスカッション」). A 'Previous Learning Date' is also shown. The 'Overview' section provides context about the 2020 curriculum revision and the course's focus on preparing teachers for a society that values social contribution. A 'Lecturer Introduction' identifies the instructor as Professor Norio Takaki from Yokohama National University. A 'Main Reading' list includes books like 'Changing Learning, Changing Learning' and 'Creating Team Schools'. A search bar is located below the overview. The bottom half of the page features a table of contents with play button icons for each section: '序章', '第1章 第1章講義', '第1章ワーク 「ディスカッション」', '第1章ワークの解説', '第2章 「学力観の転換」', '第2章講義', '第2章ワーク 「ポイントの確認」', '第2章ワークの解説', '第3章 「社会に開かれた教育課程」 ～次期学習指導要領改訂の方向性～', '第3章講義', '第3章ワーク 「ポイントの確認」', '第3章ワークの解説', and '第4章 「何ができるようになるか」 ～育成を目指す資質・能力の三つの柱～ (前半)'. The browser's address bar shows the URL 'http://www.learning-ware.jp/kyuin-kensyu/lesson/detail?ullid=NDM0ODc2MQ=='. The browser interface includes standard navigation buttons and a toolbar with options like 'Print', 'Zoom', and 'Fullscreen'.

④学習画面

講師からの講義動画と、そこで使用する資料を掲示。



⑤ワーク画面

各章で学習した内容に関するワーク。ワークは学んだ内容をまとめるものや、受講者自身の考えを投稿し、受講者どうしで意見交換をするものなど。



4 eラーニング受講状況

受講者は教育委員会や校長会を通じた募集に加え、案内をした教育委員会以外の個人での受講も受け付けた。講義動画を作成、eラーニングシステムに搭載し、12月から開講した。

岡山市教育委員会	21人
和歌山県教育委員会	15人
佐賀県武雄市教育委員会	14人
個人での受講	24人
合計	74人

5 集合研修

eラーニング修了時点で本講座の講師3名を招聘し、集合研修を実施した。集合研修では、本講座の監修である横浜国立大学名誉教授の高木展郎先生による講演に加え、各講座のワークショップを行った。ワークショップは2コマ設け、3つの講座テーマの中から2つのテーマに参加することとした。

【日時】 平成29年3月20日（祝） 13時～17時

【場所】 岡山市北区南方3-7-17 ㈱ベネッセコーポレーション本社内

【内容】

時間	内容
12:30～13:00	受付・開場
13:00～13:10	講演会開会・開会のあいさつ
13:10～14:40	高木先生による講演
14:40～15:00	講演会閉会・休憩・移動
15:00～15:55	各講師によるワークショップ①
15:55～16:00	休憩
16:00～16:55	各講師によるワークショップ②
16:55～17:00	閉会

【参加者】

○講演会

所属	人数
小学校	24
中学校	23
高校	10
教育委員会	4
大学その他	18
合計	<u>79</u>

○ワークショップ

所属	人数
小学校	6
中学校	8
高校	8
合計	<u>22</u>

6 実施・作成上の留意点

①動画コンテンツ作成にあたっての留意点

まとまった時間が確保しにくい先生方にも無理なく受講できるよう、本講座では1講座あたり10ユニット程度で構成し、1ユニット20～30分程度で学習できるようにした。また、受講にあたり、パソコンでの視聴だけでなく、タブレット端末やスマートフォンでも視聴を可能にし、場所や時間を選ばず取り組むことができるようにした。

②コンテンツを搭載するWEBシステム

従来のeラーニングで見られた解説+確認テストといった機械的な学習スタイルではなく、学習テーマについて受講者どうしで意見を交換したり、教え合ったりする「ディスカッション」機能を導入し、理解度をさらに深め、課題意識を醸成し、実践に向けての意欲を高める主体的・対話的で深い学びを目指した。

7 研修の評価方法・評価結果

集合研修においては、講演とワークショップそれぞれにおいてアンケートを行った。また、集合研修とは別に、eラーニングそのものについてのアンケートも行った。

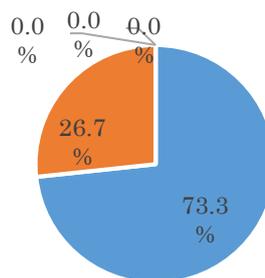
(1) 集合研修における講演のアンケート結果

選択式の質問においては、いずれの項目も肯定的な回答が85%を超えており、6項目中5項目は95%を超えていることから、今回の講演内容について、高い理解度、満足度と言える。また、「職場に戻ったら、学んだことや感想を校内で共有したい。」という割合も96.7%となっており、今回参加した方だけでなく、学校全体への波及効果が期待される。

今回の講演で印象に残ったことについての自由記述においても、「日々の授業づくりと結び付けて考えることができる」、「学んだことを授業に生かしていきたい」、「職場全体で考えを統一することの大切さを再認識した」、「若い先生にも伝えていきたい」といった声があり、講演内容について理解ができただけでなく、日々の授業や校内での取り組みにつなげていこうという機運が高まったと言える。

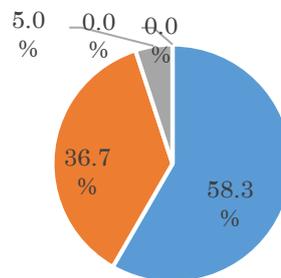
問1① 新学習指導要領のポイントやその背景を体系的に理解できた。

選択肢	割合
あてはまる	73.3%
どちらかといえばあてはまる	26.7%
どちらかといえばあてはまらない	0.0%
あてはまらない	0.0%
どちらともいえない	0.0%



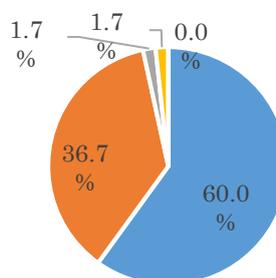
問1② 学校のグランドデザインから教科等のグランドデザイン、さらに授業作りへとつなげることによって、カリキュラム・デザインの考え方について構造的に理解できた。

選択肢	割合
あてはまる	58.3%
どちらかといえばあてはまる	36.7%
どちらかといえばあてはまらない	5.0%
あてはまらない	0.0%
どちらともいえない	0.0%



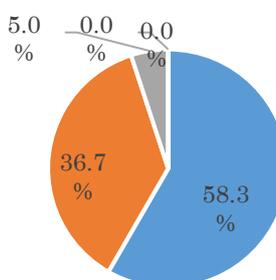
問1③ 教科横断的な視点に立った資質・能力の育成の視点に立ち、これからの授業づくりを考えることが求められていることが理解できた。

選択肢	割合
あてはまる	60.0%
どちらかといえばあてはまる	36.7%
どちらかといえばあてはまらない	1.7%
あてはまらない	1.7%
どちらともいえない	0.0%



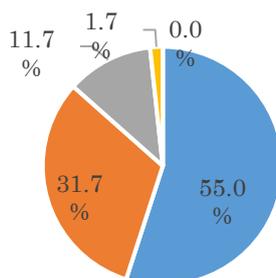
問1④ 学習・指導の改善・充実に向けて「主体的・対話的で深い学び」を実現していくうえでの視点を具体的にイメージできた。

選択肢	割合
あてはまる	58.3%
どちらかといえばあてはまる	36.7%
どちらかといえばあてはまらない	5.0%
あてはまらない	0.0%
どちらともいえない	0.0%



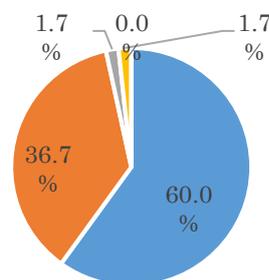
問1⑤ 新学習指導要領に沿った教育活動を通して「何が身についたか」を明らかにし、さらなる指導の改善につなげる「学習評価の充実」の重要性を理解できた。

選択肢	割合
あてはまる	55.0%
どちらかといえばあてはまる	31.7%
どちらかといえばあてはまらない	11.7%
あてはまらない	1.7%
どちらともいえない	0.0%



問1⑥ 職場に戻ったら、学んだことや感想を校内で共有したい。

選択肢	割合
あてはまる	60.0%
どちらかといえばあてはまる	36.7%
どちらかといえばあてはまらない	1.7%
あてはまらない	1.7%
どちらともいえない	0.0%



問2 特別講演について、特に印象に残ったことをその理由も合わせてお書きください。

【回答（抜粋）】

- ・カリキュラム・マネジメントに学校全体で取りくむこと、学校のグランドデザインから各教科等のグランドデザインを考えること等、まさに勤務校で取り組んでいること、私自身が研究を進めていることと重なり、印象に残りました。
- ・主体的・対話的で深い学びを実現するためには、「聴いて 考えて つなげる」授業を行うことが大切であることが1番印象に残りました。日々の授業づくりと結びつけて考えることができ、大変勉強になりました。
- ・学校で（各校）でそれぞれの特色や子どもの状況を見て、真剣にカリキュラムを考えなければならぬ時代が来たのだと感じた。
- ・個々ががんばることが多い教員の世界で、職場全体で考えを統一することの大切さを再確認した。
- ・学校全体で、子どもをゴールに向けて育てていくシステムを教員みんなでとりくんでいきたいと思いました。
- ・これから求められていることは、まだ十分自分の中に入っていないが、今日学んだことをステップに授業に生かしていきたいと思う。常に学んでいくことが大切だと思い反省しています。
- ・今日、すごくよかったです。来させていただいてとても勉強になりました。校内の若い先生にも伝えていきたい内容でした。特に後半の「主体的・対話的で深い学び」の授業についてすぐに生かせるものばかりで印象に残りました。
- ・資質や能力ベースの授業づくり カリキュラム・マネジメント等 聴くことすべてが納得のいくものでした。最近よくきくワードにうまく関連をつけることができよかったです。今日の企画ありがとうございました。

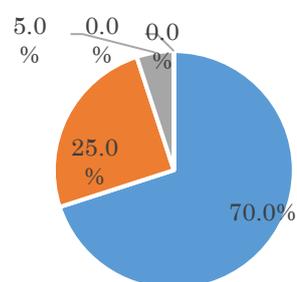
(2) 集合研修におけるワークショップのアンケート結果

選択式の質問においては、「基本的な知識や課題意識をもって、主体的に取り組むことができた。」「他の受講者の多様な考え方に触れたり、協議したりする良さを実感できた。」「授業改善や教育活動に取り組んでいく上でのイメージを持つことができた。」という項目で、肯定的な回答が95%を超えており、今回のワークショップに向けた事前の学習の効果や、学校種を超えた協議に対する満足度の高さが伺える。また、「日常の教育活動において、実践してみたいという気持ちが強くなった。」という項目に、「あてはまる」と回答した割合は85%となっており、集合研修を通して学んだことを日々の授業につなげていこうという機運が高まったと言える。

今回のワークショップで印象に残ったことについての自由記述では、「学校種や教科のちがいがあり、アクティブ・ラーニングの視点があいまいでつかみにくかった。」という声があったものの、多くの受講者からは、学校種の違う先生方と意見を交わすことで、学校種による違いを認識し、見識が広がったという好意的な声をいただいた。また、目指す方向性についての理解は深まったものの、「学校現場で共有するのはまだまだハードルが高い」、「学校現場が本当にその方向に変われるのか」、「一人一人が意識を変え、時代の変化に対応していく必要がある」といった、実現に向けての難しさや、変化の必要性についての声をいただいた。

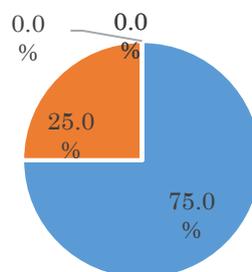
問1① 基本的な知識や課題意識をもって、主体的に取り組むことができた。

選択肢	割合
あてはまる	70.0%
どちらかといえばあてはまる	25.0%
どちらかといえばあてはまらない	5.0%
あてはまらない	0.0%
どちらともいえない	0.0%



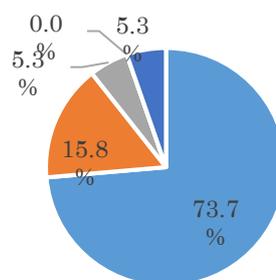
問1② 他の受講者の多様な考え方に触れたり、協議したりする良さを実感できた。

選択肢	割合
あてはまる	75.0%
どちらかといえばあてはまる	25.0%
どちらかといえばあてはまらない	0.0%
あてはまらない	0.0%
どちらともいえない	0.0%



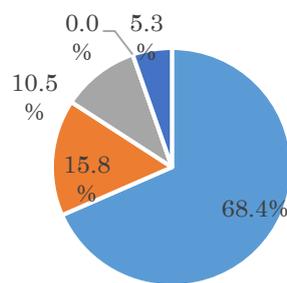
問1③ eラーニングで学んだことが、より深く理解できた。

選択肢	割合
あてはまる	73.7%
どちらかといえばあてはまる	15.8%
どちらかといえばあてはまらない	5.3%
あてはまらない	0.0%
どちらともいえない	5.3%



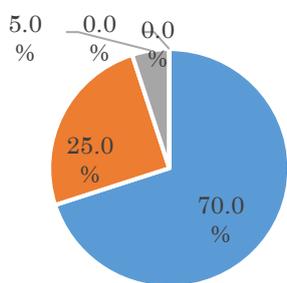
問1④ eラーニングで抱いた疑問や理解が不十分だった点がクリアになった。

選択肢	割合
あてはまる	68.4%
どちらかといえばあてはまる	15.8%
どちらかといえばあてはまらない	10.5%
あてはまらない	0.0%
どちらともいえない	5.3%



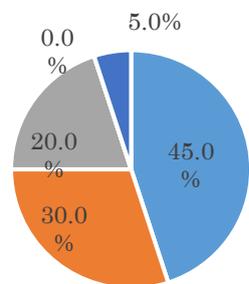
問1⑤ 授業改善や教育活動に取り組んでいく上でのイメージを持つことができた。

選択肢	割合
あてはまる	70.0%
どちらかといえばあてはまる	25.0%
どちらかといえばあてはまらない	5.0%
あてはまらない	0.0%
どちらともいえない	0.0%



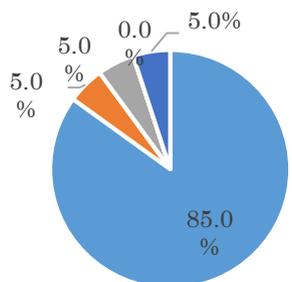
問1⑥ 実際に顔を合わせての交流をすることで、学校を超えた人脈が広がった。

選択肢	割合
あてはまる	45.0%
どちらかといえばあてはまる	30.0%
どちらかといえばあてはまらない	20.0%
あてはまらない	0.0%
どちらともいえない	5.0%



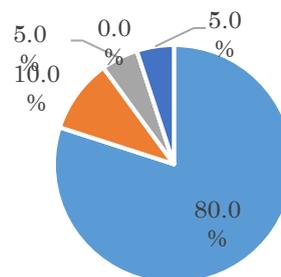
問1⑦ 日常の教育活動において、実践してみたいという気持ちが強くなった。

選択肢	割合
あてはまる	85.0%
どちらかといえばあてはまる	5.0%
どちらかといえばあてはまらない	5.0%
あてはまらない	0.0%
どちらともいえない	5.0%



問1⑧ 職場に戻ったら、学んだことや感想を校内で共有したい。

選択肢	割合
あてはまる	80.0%
どちらかといえばあてはまる	10.0%
どちらかといえばあてはまらない	5.0%
あてはまらない	0.0%
どちらともいえない	5.0%



問2 今回の特別企画「ワークショップ」について、特に印象に残ったことをその理由も合わせてお書きください。

【回答（抜粋）】

- ・学校全体で一つの目標に向かって手立てを考える必要性を強く感じました。ベテランの先生方と、私のような新人との差をいかに埋めるかについて他校種の先生方に教えていただけて本当に助かりました。
- ・目指す方向性は理解できましたが、現在の学校現場が本当にその方向に変わるのか、知識、技能の習得は十分にさせられるのか、考えさせられました。一人一人が意識を変え、時代の変化に対応していく必要があると実感しました。
- ・これまでの取り組みが確かであることを確認できました。ただ、それを学校現場で共有するのはまだまだハードルが高いように思います。
- ・学校種や教科のちがいがあり、アクティブ・ラーニングの視点があいまいでつかみにくかった。
- ・異校種の先生方とのワークショップを通じてカリマネについて、学びを深めることが出来ました。
- ・小学校と中・高の違いを強く感じました。中・高では教科間のつながりが重要であり、難しいところでもあるということです。反対に、全教科を見る小学校の強みということも感じました。
- ・小中高の先生様の様々な考えや疑問点を聞くことができたので、見識が広がったような気がする。
- ・具体的なテクニックを教えていただいたのがためになりました。小学校では「〇〇さんの意見に賛成で、〇〇と思います。」等、他の人と関連づけて発表しますが、中学校だと先生と生徒の一对一のやりとりになってしまったり、「同じです」の一言のみになってしまうため、生徒と生徒をつないで聴く姿勢を育てることが大切だということが分かりました。
- ・問いをどれだけ面白くし、いかにしゃべらないかがポイントということに納得し、カリキュラム・マネジメントとは何かが理解できました。
- ・カリキュラム・マネジメントについては、研究主任として校内の先生方に取り組みやすい方法を提示するのにとても参考になった。
- ・単元の構想もカリキュラム・マネジメントも、生徒の実態を把握し、どのような力を身につけさせたいのかという点を捉えておくことの重要性を感じた。

(3) e ラーニングのアンケート結果

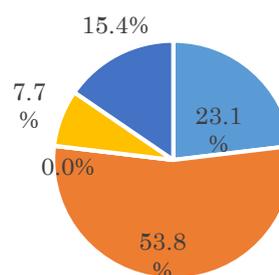
e ラーニングの機能や取り組みやすさについての質問では、「振り返りワーク」や「ディスカッション機能」などを通して学習内容の定着が図れた。」や、「文字だけでなく、映像や音声、図表などによって理解が促進された。」という項目の肯定

率が高く、映像等により理解が促進されたと回答した割合は9割を超えている。一方、1回20分程度で取り組めるような章立てで構成していたが、「1回20分程度の無理のない学習で時間を有効に活用できた。」と肯定的に回答した割合は5割強となっており、高い数値とは言えない。また、今回はパソコンに加え、タブレット端末やスマートフォンでも受講可能にしたが、最もよく使用した機器はパソコンで85%となっていた。

自由記述の質問では、「具体的なイメージがつかみにくい、指導要領の改訂やアクティブ・ラーニングについてイメージできた」など、講座の内容の理解についての声や、「自分のペースで進められる」、「学びたいときに学べる」、「見直しをすることができる」といったeラーニングだからこそその機能についての好意的な声をいただいた。一方で、操作性やネットワークや機器による不具合等の声もあり、今後改善が必要と考える。

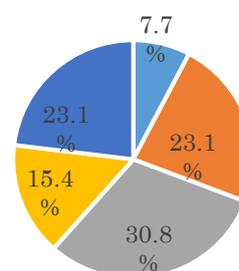
問① 「振り返りワーク」や「ディスカッション機能」などを通して学習内容の定着が図れた。

選択肢	割合
あてはまる	23.1%
どちらかといえばあてはまる	53.8%
どちらかといえばあてはまらない	0.0%
あてはまらない	7.7%
どちらともいえない	15.4%



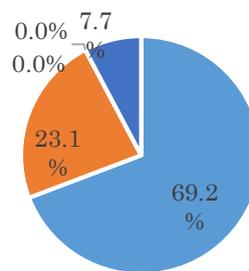
問② 「ディスカッション機能」を通して受講者間での意見交換ができ、視野が広がった。

選択肢	割合
あてはまる	7.7%
どちらかといえばあてはまる	23.1%
どちらかといえばあてはまらない	30.8%
あてはまらない	15.4%
どちらともいえない	23.1%



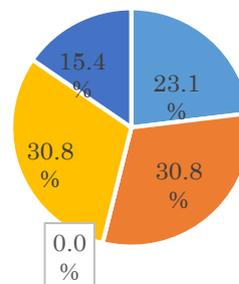
問③ 文字だけでなく、映像や音声、図表などによって理解が促進された。

選択肢	割合
あてはまる	69.2%
どちらかといえばあてはまる	23.1%
どちらかといえばあてはまらない	0.0%
あてはまらない	0.0%
どちらともいえない	7.7%



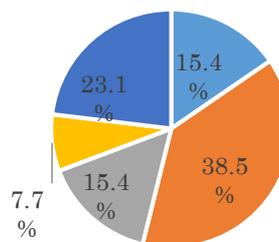
問④ スマートフォンやタブレットを使って、いつでもどこでも自分のペースで学べた。

選択肢	割合
あてはまる	23.1%
どちらかといえばあてはまる	30.8%
どちらかといえばあてはまらない	0.0%
あてはまらない	30.8%
どちらともいえない	15.4%



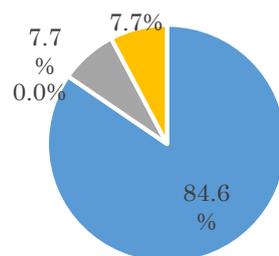
問⑤ 1回20分程度の無理のない学習で時間を有効に活用できた。

選択肢	割合
あてはまる	15.4%
どちらかといえばあてはまる	38.5%
どちらかといえばあてはまらない	15.4%
あてはまらない	7.7%
どちらともいえない	23.1%



問 今回eラーニング講座受講のために、最もよく使用した機器を1～4の中から一つ選んでください。

選択肢	割合
1. パソコン	84.6%
2. タブレット端末	0.0%
3. スマートフォン	7.7%
4. その他	7.7%



問 今回のeラーニング講座を受講してみて、「印象に残ったこと」を自由にお書きください。

【回答（抜粋）】

- ・新学習指導要領を知る必要性。現場で働く者としては、新学習指導要領がどんなものなのか知る必要があると感じました。また、なぜカリキュラム・マネジメントが求められているのか、その理由を少しは理解したように思います。
- ・アクティブ・ラーニングの導入は「子供は学校の主語にする」という姿勢や考え方であることが理解できた。
- ・なかなか具体的なイメージがつかみにくい、指導要領の改訂やアクティブ・ラーニングについて、受講することでいくらかイメージできるようになった。
- ・新しい学習指導要領に向けて授業改善をする必要がある。そのために、アクティブ・ラーニングを通して子ども主体の授業に変えなければならない。
- ・もうすぐ新学習指導要領の告示があるが、今学校現場でしていることと、次の学習指導要領がどのようなつながっていくのかとイメージしながら毎日の授業をしていくことができた。一人一人の教師が少しずつでも意識していくことで、毎日の授業で子どもが伸びてゆくことを実感し、授業を楽しみと思える教師になってほしいと思った。また、改訂の内容を周りの職員にも伝えていきたいと思った。
- ・十分な時間をとって学習に臨むことは難しい面もあったが、自分の時間に合わせて学習できるということは大変魅力的であった。カリキュラム・マネジメントやアクティブ・ラーニングについて、大まかにではあるが、自分なりに学習できたと思う。今後も、研修を続け、学習したことをしっかり生かしていけるようにいきたい。
- ・アクティブ・ラーニングという言葉が広がっているが、その背景やこれまで求められていた「学力」とは違う、「資質・能力」について学習指導要領の方向性が変わったことがよくわかりました。
- ・社会に開かれた教育課程の実現が、現代社会の情勢と密接にむすびついていること、主体的・対話的で深い学びの実現のため、特にメタ認知（自分たちが何をやっているか）が重要であるといったことが大変印象に残った。
- ・自分のペースで受けられる研修はなかなかないので、良かったです。ただ、課題をこなすのに精一杯で、課題が多いのが大変でした。また、集合研修は決まるのがギリギリだったので、元々決まっている方が良かったかもしれません。

問 集合での研修と比較して、「よかったと感じた点」について自由にお書きください。

【回答（抜粋）】

- ・自分のペースで進めることができることが一番大きかったです。受講中に急用が入り、中断しても、また、受講しなおすこともできました。
- ・集合での研修にはまだ参加していないが、自分が学びたいと思った時に学べる点がよかった。
- ・学べる時、学びたい時に学べることは大きなメリットでした。
- ・様々な機器を用いて、自分のペースで研修を進めることができる点です。また必要に応じて動画を見直すことができるため、一度では理解しにくい内容についても、理解を深めることができました。
- ・個別に学習できたのがよかった。スライドがかなり詳しく書かれており。勉強になった。
- ・自分で時間が上手く使えるところ。
- ・自分の時間を有効に使うことができました。子育てをしている身でもあるので、その合間の時間がかつようできました。
- ・時間の制約がない点は良いと思う。最大のメリットは、気になった点・聞き逃した点について繰り返し見ることができることである。集合研修では「何？」と思っても講義が進んでしまうのが困った点であった。
- ・自分のペースで学習できる。何度でも学習できる。
- ・なし。集合研修の方がよい。

問 集合での研修と比較して、「受講しにくいと感じた点」について自由にお書きください。

【回答（抜粋）】

- ・学校のPCでは、eラーニングが視聴できないので、とても大変だった。1つ1つの講座の時間も長い。数も多い。
- ・当然ではあるが、ライブの迫力がない。講師の方も、原稿を読んでいるという印象で、なかなか講義に入り込みにくい印象があった。どうせなら、実際に受講する人がいる前で録画して臨場感のある方が聞きやすいかもしれません。
- ・操作が難しい箇所があった。特にディスカッションボードはややこしかった。
- ・機器によっては、各ワークを記入しにくい点です。（特にスマートフォン使用時）
- ・集合での研修にまだ参加していないが、自分が回答して、ディスカッションをしたいと思った時に、誰かが同時に見ていてくれないと話し合いにならないので、ディスカッションにはならなかった。
- ・ディスカッションについて。
- ・今回、職場のPCと自分のスマホで学習しようとしたが、映像がうまく映らず、スライド資料をプリントアウトし、学習したので、学習があまり進みにくかった。早く相談すればよかったのだが、仕事等で忙しく連絡がおくれてしまった。
- ・自由なペースでできる反面、しっかり自己管理しないと受講が後回しになってしまう。
- ・集中して取り組むことができているかどうか自分自身が疑問です。
- ・パスワードを自分で設定できるようにしてほしい。

8 研修実施上の課題

① eラーニングにおける受講者どうしの意見交換・協議をファシリテートする仕掛けの充実

従来型のWEBテスト等による「理解度チェック」に終わることなく、受講者が主体的に考え、意見を発信・交換する「ディスカッション機能」を導入したが、受講者の学習進度が異なるためにコメントをする機会が持ちづらいことや、他者へのコメントを躊躇する傾向があるなど、全体的にディスカッションは活性化できなかった。ディスカッションの方向性をリード、ファシリテートする仕掛け作りを充実・工夫することが今後の課題と言える。

②十分な学習期間の確保と学習状況のていねいなモニタと学習促進の個別化対応

自分の学習ペース、スタイルに合わせて学習できることを多くの受講者はメリットとして高く評価している反面、受講者の自己管理に委ねることとなるため、学習スケジュールをたてて、継続的に取り組めるよう、講座運営者側からの学習促進の個別的な働きかけ等が重要となってくる。特に、今回の試行は年末から3月下旬という多忙な時期での限定的なものであったため、本来的な意味では自分のペースで学習に取り組めるだけの時間を十分に確保できていなかったことが反省点となっている。

なお、今回は校長会等を通じての受講者募集という形が中心だったため、受講者においてはボランティアな意識もあり、ある意味での強制力や受講によるメリット（たとえば、教育委員会による研修受講認定等）をしかけとして設定できるように教育委員会等とのより組織的な連携が重要な課題となろう。

③学校におけるPC環境への対応

今回は、意欲のある教員が受講に応募したと考えられるが、校内のPC環境の制約上、動画が視聴できないといった課題もでており、職場や家庭におけるPC環境等についても、事前に確認しておくことも必要と考える。

④集合研修におけるワークショップ参加条件の再考

今回は3つのeラーニング講座をすべて視聴し、ワーク課題を行ったうえで、更に各講座の「修了課題」に取り組むことがワークショップ参加の条件としていたが、学習期間の時期や長さ等もあり、受講者からは参加のハードルが高いという声も聞かれた。eラーニング受講と集合研修のハイブリッドによる本システムの良さを最大限高めていくうえでもそうした条件面での再考は重要な課題といえよう。

⑤効果測定について

eラーニングでの基礎知識の理解や課題意識の醸成を、集合研修でより確かなも

のとし、次なる行動に向けての意欲・態度を高めたうえで、それらが日々の教育活動において、どのように発揮されていくのかまでを継続的に探ることによって、本システムの効果検証となるとの認識ではあるが、今回は年度をまたいでの実施が実現できなかったことは今後の課題として残った。

Ⅲ 連携による研修についての考察

本企画に対して連携・協力を依頼する教育委員会や教育センターを開拓するうえで最も困難であったのは、前年度には今年度の研修計画が既に策定されており、本企画に魅力を感じるものの今年度の計画に取り入れることは不可能という意見が圧倒的に強く、単年度で計画から実施、効果測定、改善というPDCAを回していくことは難度が高い。教育委員会や教育センターとのより密接で確実な成果につなげていくためには、複数年を念頭に置いた計画、思惑を早い時期からすり合わせていくことが、特に企業においては重要なポイントであると考えます。

Ⅳ その他

[キーワード] 新学習指導要領、カリキュラム・マネジメント、
アクティブ・ラーニング、eラーニング

[人数規模] D.51人以上

[研修日数 (回数)] eラーニング : D.11日以上 (11回以上)
集合研修 : A.1日以内 (1回)

【問い合わせ先】

株式会社ベネッセコーポレーション

学校カンパニー 事業開発課

〒163-0411 東京都新宿区西新宿2丁目1-1 新宿三井ビルディング

TEL 050-3377-5263